

mitsuba環境レポート2021

－ 豊かで安心できる環境の実現 －

目次

	編集方針	1
	トップメッセージ	2
	プロフィール	3
	方針	6
	長期ビジョン	7
	ガバナンス	8
	リスクマネジメント	11
	重要な環境課題	13
	エンゲージメント	22

編集方針

- **編集について**
本報告書は、ミツバグループの環境マネジメントの活動内容をまとめたものです。本報告書は環境に対するミツバグループの姿勢や将来への方向性を示すとともに、環境目標に関する年度実績と進捗状況を中心に報告しています。
ミツバグループの環境マネジメントについて多くの方々にご理解いただけるよう、専門用語等による記述を最小限に抑え、分かりやすい文体による文章構成を心がけて作成しています。
- **報告対象期間**
2020年4月1日～2021年3月31日
一部の活動内容や重要な活動内容については、上記の期間以外の情報も記載しています。
- **報告対象組織**
株式会社ミツバおよびグループ会社を含めたミツバグループ全体を報告対象としています。ミツバグループ全体を対象としない報告には、個々に社名を記載しています。
- **参考としたガイドライン**
環境省 「環境報告ガイドライン2018年版」

 トップメッセージ

私たちが所属する自動車産業は、「CASE」と呼ばれる、100年に一度の転換期を迎えております。内燃機関からEVへのシフト、技術進化の主役がエンジンから電動化へ交代しています。当社が提供する価値は従前より、モビリティ社会への利便性・快適性・安全性を標榜しており、それを支える技術も、創立以来、連綿と受け継がれ、文脈を構成してきました。

当社グループは、企業の継続的発展のため、お客さまに「喜びと安心を提供する」という事業コンセプトで経営することが、ひいては社会や株主のご期待にお応えすることになるということの基本理念としております。この基本理念をCSR活動の基本方針とし、2020年度からESG（環境・社会・ガバナンス）を軸にした活動体制にシフトいたしました。気候変動対策をはじめとする環境保全活動もグループで取り組む重要な経営課題と認識しており、「豊かで安心できる環境の実現」を目指してまいります。

今後も企業活動の情報開示に努め、皆さま方からの貴重なご意見をグループ経営に反映してまいりますので、率直なご意見とご助言をお願い申し上げます。

株式会社ミツバ
代表取締役社長

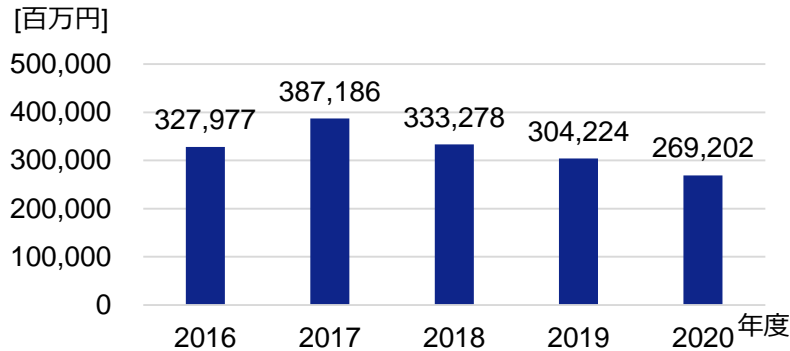
北田勝義



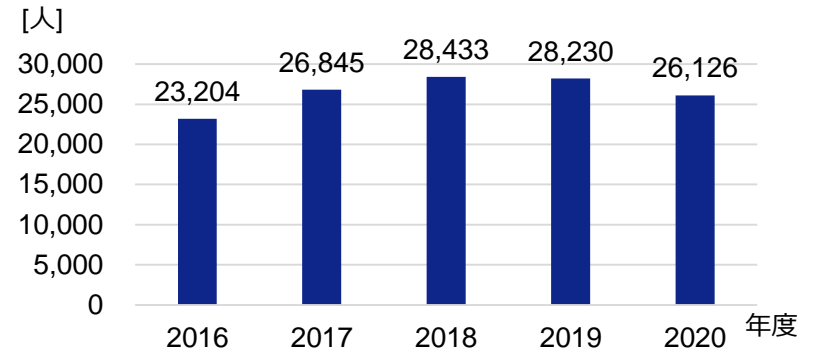
ミツバの概要

私たちは、多様化するモビリティ市場において、「モーター・制御・機構」の技術で、お客さまの安全・安心ニーズに応える商品をグローバルに提供しています。

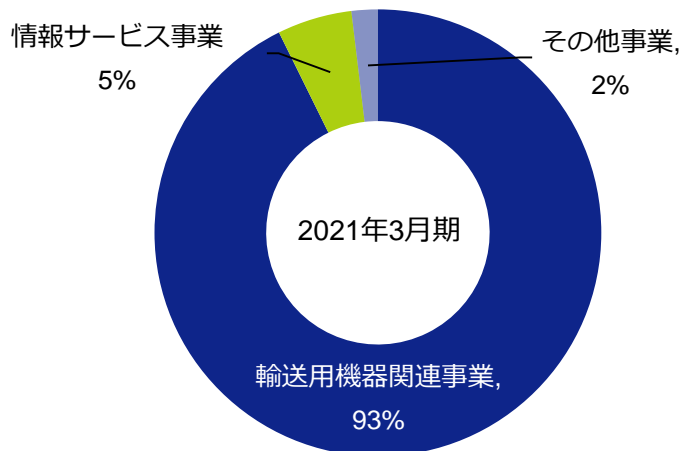
連結売上高



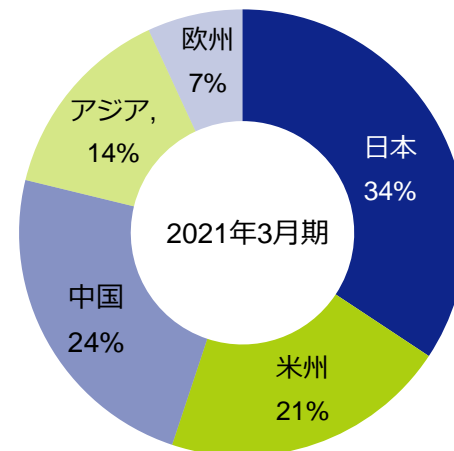
連結従業員数



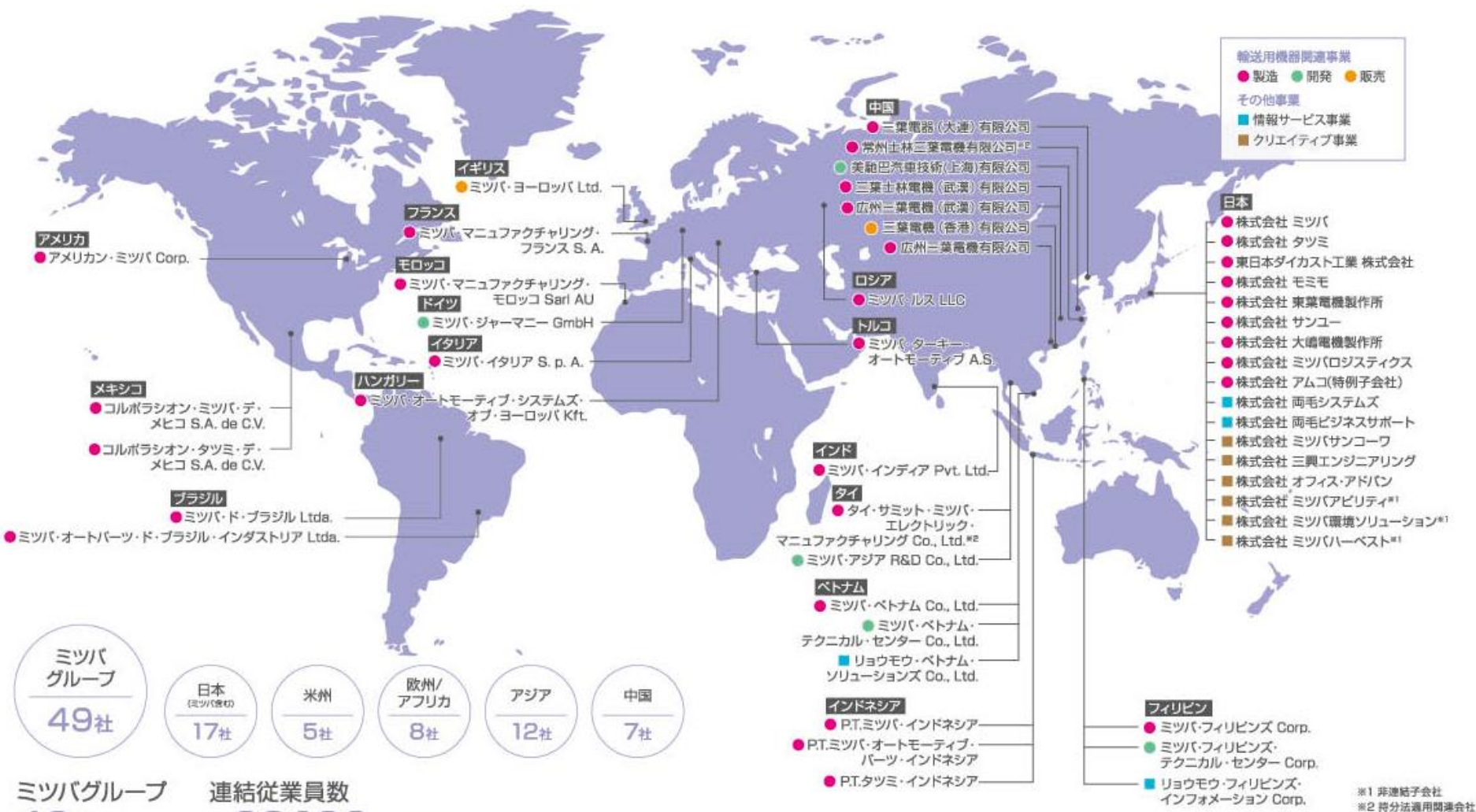
事業別売上高



地域別売上高



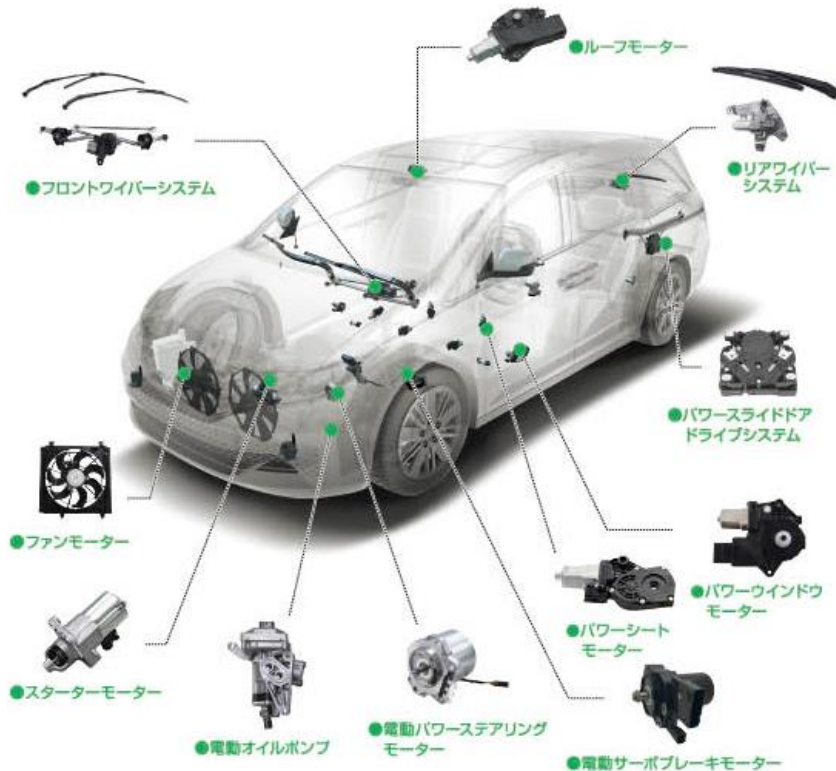
グローバルネットワーク



製品情報

私たちは、多様化するモビリティ市場において、「モーター・制御・機構」の技術で、お客様の「安全」「利便快適」「環境」のニーズに応える商品をグローバルに提供しています。
自動車用製品（四輪電装）とバイク用品（二輪電装）を中心に、その技術を活かして汎用電装製品を手がけています。

四輪電装製品



二輪電装・汎用製品



 **基本理念（CSR方針）**

**ミツバは、ミツバを愛しささえる人々とともに、
社会と環境に調和した技術の創造を通して、
世界の人々に喜びと安心を提供する。**

企業理念とはあらゆる企業活動の基本的な考え方を示すものであり、ミツバの戦略や計画、諸制度、業務活動等、全て企業理念の下に構築しています。ミツバは、この企業理念を構成する「基本理念」をCSR（企業の社会的責任）に関する方針として位置付けています。

ミツバ環境宣言

私たちは、社会と環境に調和した技術開発を通して、自然環境との継続的な共生を図り、豊かで安心できる環境の実現をめざします。

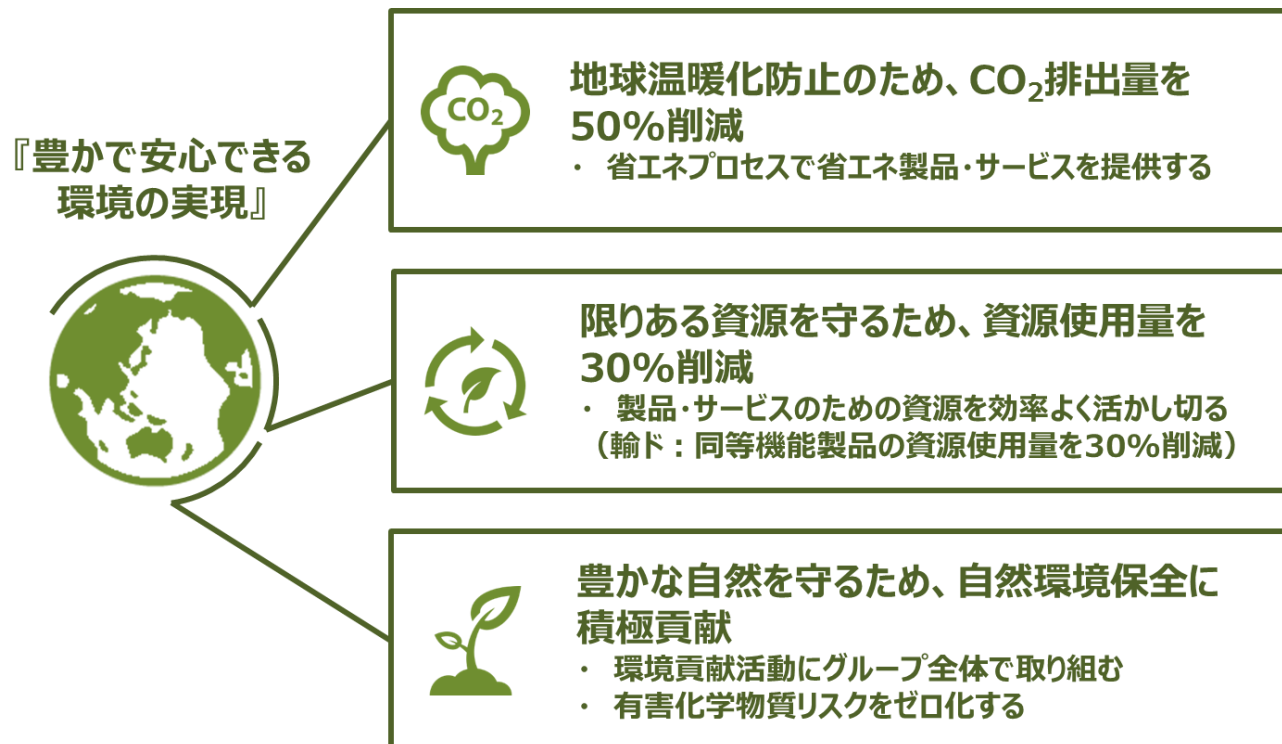
- 一. **私たちは、開発、生産、販売すべての企業活動において、資源・エネルギーの節約に努めます。**
- 一. **私たちは、廃棄物、汚染物質の削減と適正な処理に努めます。**
- 一. **私たちは、地域環境との調和を図り、安心できる生活環境の保全に努めます。**

ミツバグループは、CSRのひとつである環境領域の方針として、1993年5月に「ミツバ環境宣言」を制定し、公表しました。この宣言の実現に向けてグローバルな環境活動に取り組んでいます。

 ミツバ環境ビジョン2046

ミツバグループは、グループ統一の長期目標として「ミツバ環境ビジョン2046」を2017年5月に制定しました。

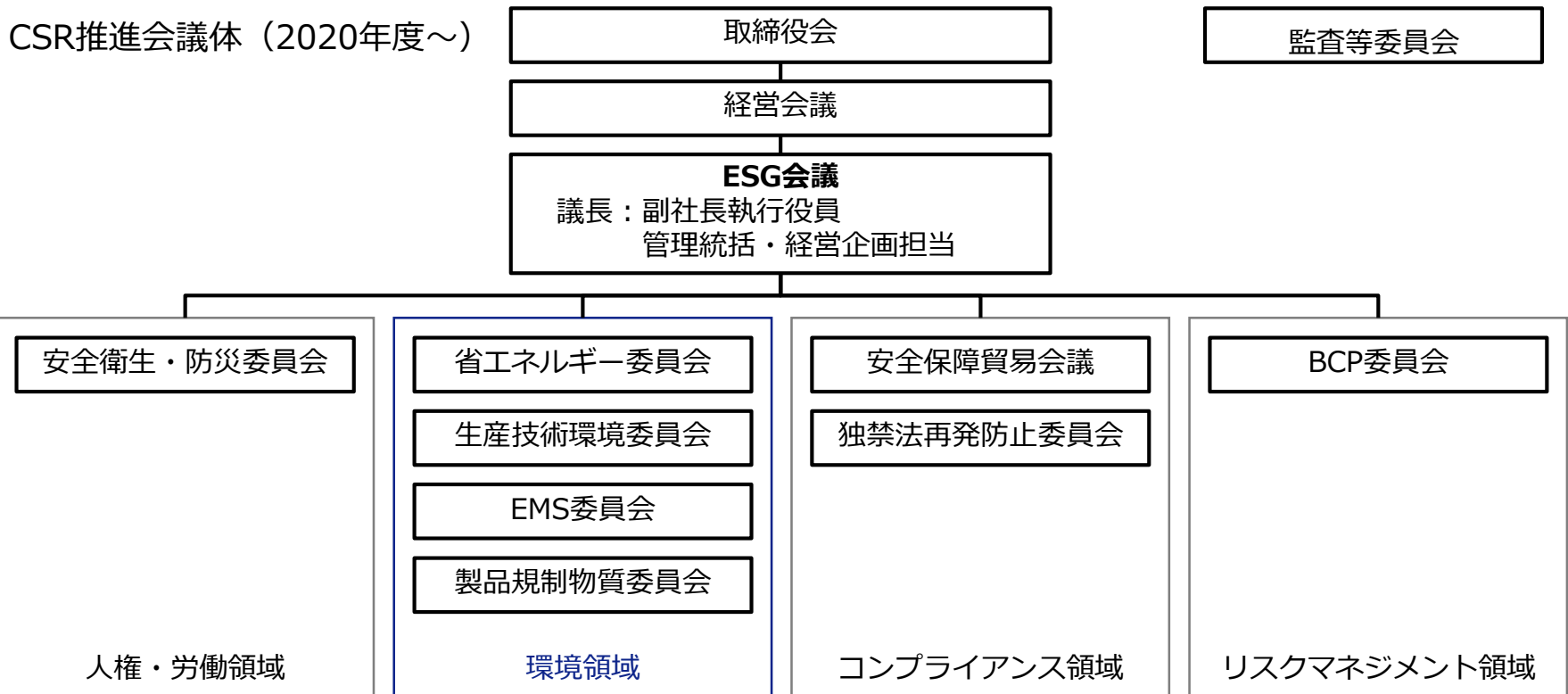
このビジョンは「環境宣言」にある「豊かで安心できる環境の実現」を達成するための長期目標であり、CO₂排出量および資源使用量の削減を通じた「企業価値の向上」と、環境汚染リスクのゼロを目指す「自然環境の保全」との両立の実現を目指し、ミツバの創立100周年にあたる2046年を目標年度に定めています。



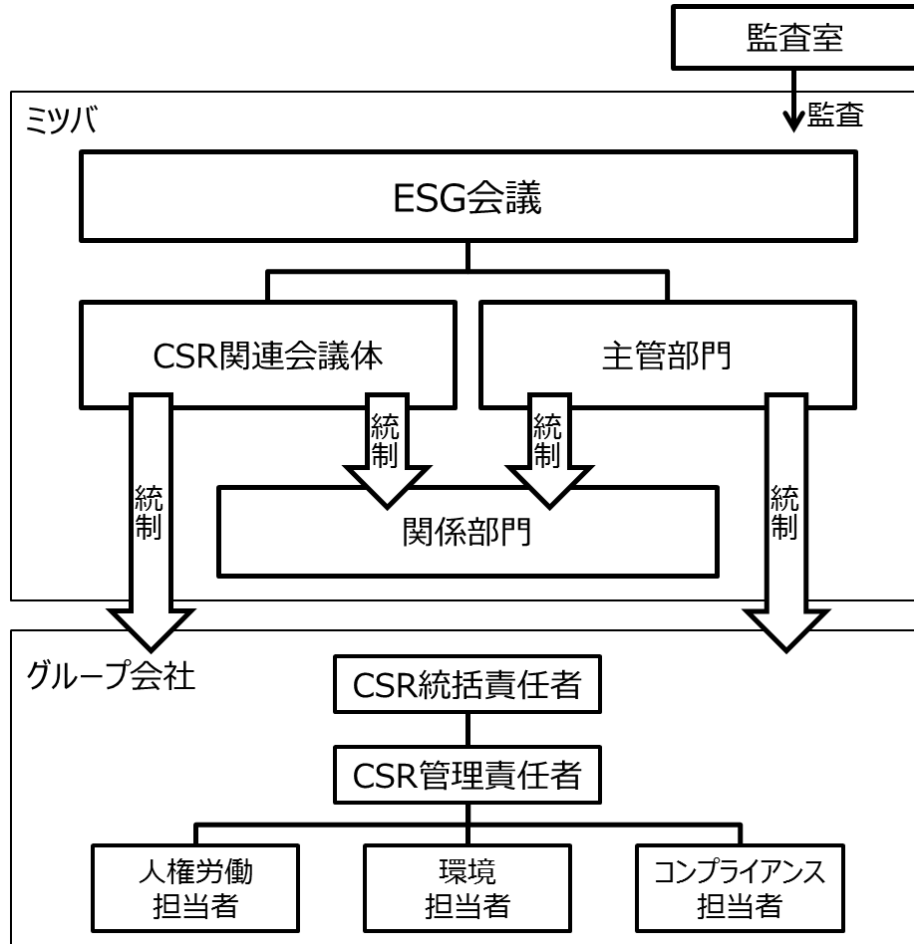
環境領域を含むCSR推進体制

ミツバグループでは「ESG会議」により、CSRに関する重点課題を確認し、適切な運用を推進・統制しています。また、ミツバグループの法令並びに社会規範等の遵守状況を確認及び改善し、ミツバグループにおいて発生し得る損失危機に対する分析と評価、その対応を統制しています。更に各領域別に課題解決のための委員会を設置し、各分野のエキスパートが活動しています。

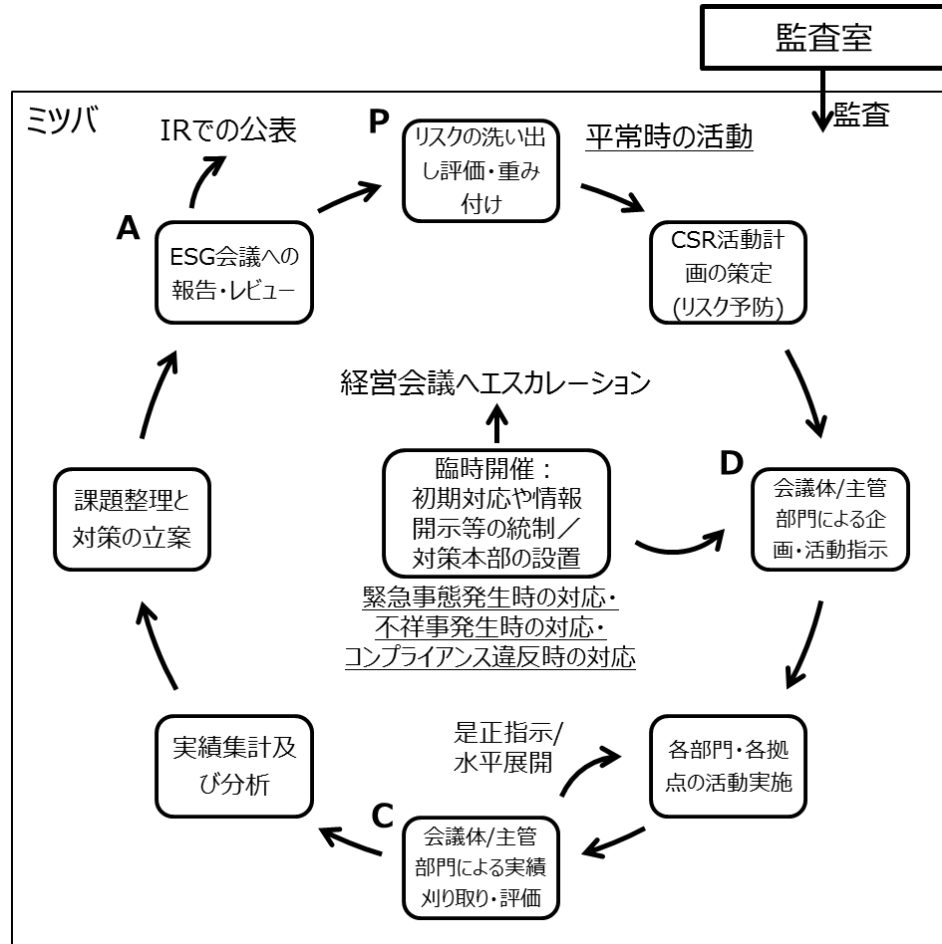
環境領域についても、各委員会を中心として、活動方針とテーマを決定し、その達成状況や環境コンプライアンスをレビューしています。



グループCSR推進体制



CSR推進フレームワーク (PDCAサイクル)



各事業拠点にはCSR及び環境マネジメントを継続的に運用するための組織体制が整備されています。「ESG会議」の決定事項やミツバグループ目標の達成、各拠点固有の課題解決に向けた取り組み計画を策定し、達成状況の評価とフィードバックを実施しています。

環境マネジメントシステム

ミツバでは、EMS委員会および各サイト環境委員会を中心に環境マネジメントシステムを運用し、環境保全活動に取り組んでいます。年に1度、全社環境統括管理者である副社長によるレビューを行い、取組みの有効性および適切性を確認しています。経営への影響度が大きい案件については、ESG会議にて決議しています。

ミツバグループの国内外の生産拠点の多くは、環境マネジメントシステムの国際規格ISO14001の認証を取得しており、順次拡大しています。

環境内部監査

ミツバでは、環境マネジメントシステムのPDCAサイクルが適切かつ有効に機能していることを確認するために、内部環境監査を毎年実施しています。2018年度から内部環境監査の厳格性を重要視し、軽微な指摘内容でも再発防止プロセスに沿って是正処置を行うように監査方法を変更しました。監査においては、過去の監査結果や環境上のニーズや課題の変化を考慮した重点監査項目を設定しています。また、グループ各社に対しても環境ビジット監査を行い、取組みの有効性および適切性を確認しています。

緊急事態および苦情への対応

2020年度は環境に悪影響を及ぼす緊急事態の発生や外部からの苦情はミツバグループにありませんでした。

緊急事態や苦情が発生した場合、再発防止対策の手順に沿って対応します。環境汚染を引き起こすおそれのある事故や緊急事態は、緊急事態の発生に伴う環境影響を想定して、影響を緩和する手順を定め、現場訓練と手順の評価を定期的実施しています。

リスク評価

ミツバグループでは、変化する社会・環境問題に関わる事業等のリスクを定期的（年1回）に洗い出し、発生頻度および様々な影響度から評価しています。ESG会議において、それらリスクの責任部署や会議体を明確にし、軽減措置を立案、実行を指示するとともに、重要リスクを特定し、有価証券報告書等にて外部に開示しています。

リスクと機会

ミツバグループでは、環境問題に関わる「リスク」に対して、経営活動と一体化した環境マネジメントシステムにより、その軽減措置に努めています。一方、脱炭素社会への貢献はミツバグループの経営活動に寄与する重要な「機会」として、車両に搭載する小型軽量製品の設計開発や、省エネ志向の生産技術開発を推進しています。その他にも、三興エンジニアリングでは、太陽光発電施設の設置、LED照明機器や高効率工ア－機器等の製造・販売しており、各社の強みを生かした事業展開を行っています。

環境問題に関わるリスクと機会

環境問題	リスク	機会
気候変動	石油からのエネルギー転換が進み、現在のビジネスモデルが変革され、省エネ製品を求める市場ニーズに対応しないと事業が成立しない	製品設計と生産技術の進化、生産革新により、製品原価を削減し、環境負荷がゼロに近い製品を安定的に提供することで、環境トップランナーを目指すことができる
資源枯渇	資源枯渇により、原材料価格が高騰し、従来のモノづくりができなくなる	
自然破壊	有害物質使用により、自然環境へ負荷を与え、将来的に法令違反につながるリスクがある	自主的な削減・管理徹底により、社会や顧客の信頼を確かにし、事業を発展できる

環境コンプライアンス

ミツバでは、2018年度から2019年度にかけて国内18拠点を訪問し、担当者とともに契約書類や届出書類の確認、製造現場に潜むリスクを調査し、是正する未然防止活動を完了しました。

今後は、環境マネジメントシステム運用によるリスク低減をより確実にしていくために、国内グループ会社の環境マネジメントシステムの有効性を検証し、支援する活動を計画しています。

海外グループ会社へのガバナンス

ミツバは、海外グループ会社の環境法規制の順守状況についても、現場・現物による確認を計画的に実施しています。現地の環境法規制では、廃棄物置場の表示や保管、記録類の管理も求められますが、現地を訪問して現場を直接確認することで、日々の運用状況を把握し指導することができます。

また、有害化学物質の流出や漏えい、危険物の火災や爆発といった環境面のあらゆるリスク発生を未然防止するために、設備・施設を直接確認して指導を行っています。

環境不適合発生時の再発防止

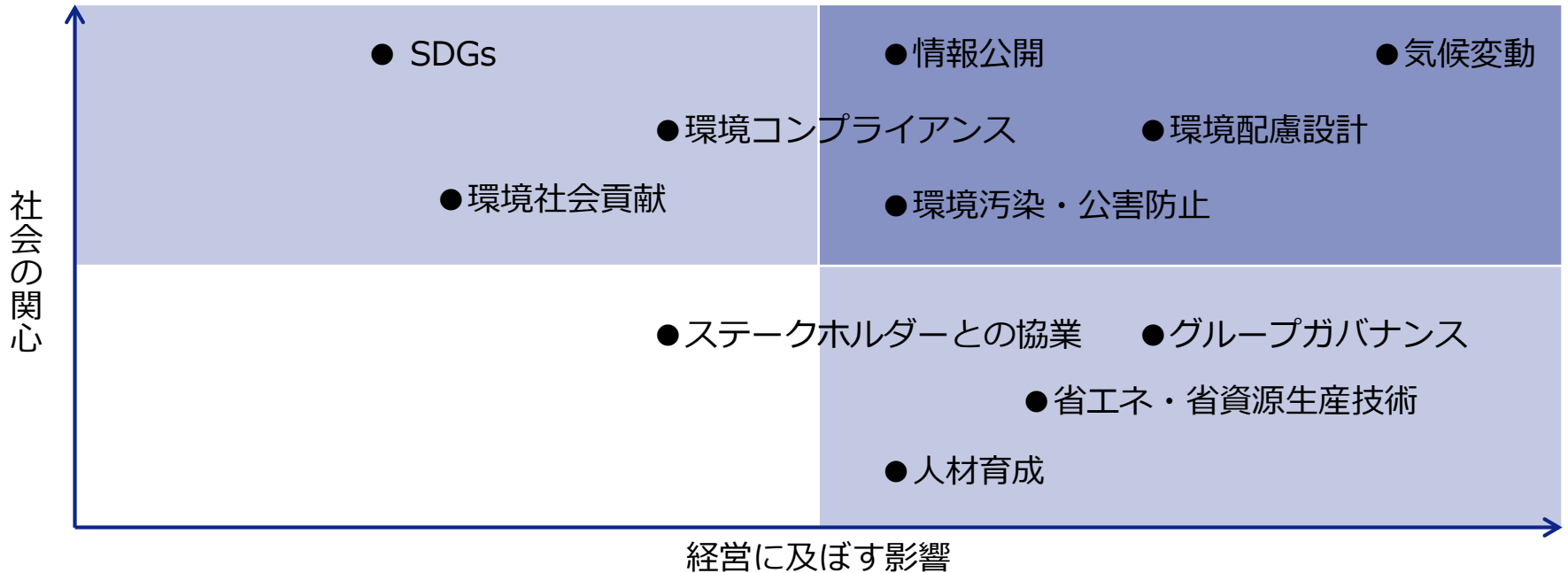
ミツバグループでは、環境不適合が発生した場合は速やかに全社環境統括管理者（ミツバ本社）へ報告するとともに、発生した拠点は応急措置を行った上で、原因調査と是正措置を実施します。

全社環境統括管理者は、実施された是正措置の有効性を評価し、類似するリスク全てに対して、他のグループ会社には是正措置の水平展開を指示します。



① マテリアリティ（重要な課題）の特定

ミツバ環境宣言に基づく「ミツバ環境ビジョン2046」を達成するため、ミツバグループの事業活動を通して間接的または直接的に発生する環境影響の中から、社会の関心と経営に及ぼす影響量を判断基準として、マテリアリティ（重要な環境課題）を特定しています。特に、地球温暖化対策、環境コンプライアンス、環境汚染防止は社会への影響の大きさから、最優先に取り組む重点課題として、特定しました。環境配慮製品が車両に搭載されることにより、環境負荷の低減はグローバル規模でその効果が拡大します。ミツバでは設計開発部門が各事業計画に開発テーマを組み込んで、環境配慮製品の上市を推進しています。





① 第12次中期環境目標の実績

ミツバグループは、特定したマテリアリティ（重要な環境課題）の解決に向けて、重点施策として「第12次中期環境管理方針」に落とし込み、「環境保全・環境経営の推進」というスローガンの下、CO₂排出量の削減や環境管理体制の強化に取り組んでいます。2020年度実績は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、削減目標を達成できませんでしたが、削減施策は着実に推進しました。

第12次中期環境管理機能方針：「環境保全・環境経営の推進」

重点施策	ゴール	2020年度実績	自己評価
CO ₂ 排出量の削減	グループ全体CO ₂ 排出量： 2010年度比 売上原単位 20.0%削減	16.9%削減	△
製品規制物質管理体制の強化	業界標準による管理体制の評価： 3.5点以上	業界評価標準が発行されず、未評価だが、改善施策は全て実施完了	○
環境マネジメントシステム運用によるリスク低減	重大違反ゼロ	重大な環境汚染、事故および法令違反はない	○

評価基準（○：100%、△：80%以上、100%未満）



① 電動化への最適ソリューション

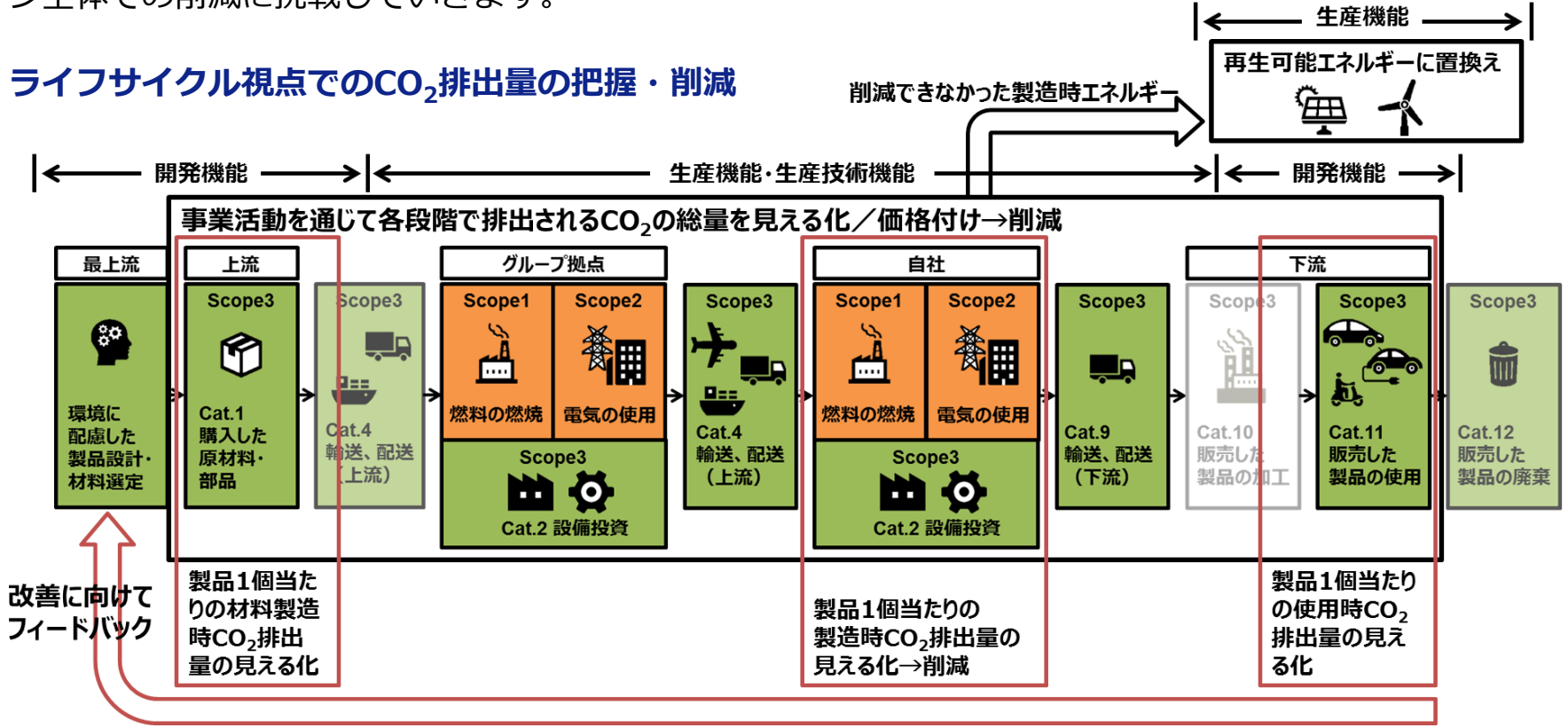
ミツバグループは、多様化するモビリティ市場において、「モーター・制御・機構」の技術で、お客さまの安全・安心ニーズに応える商品をグローバルに提供しています。今後、CASEを始めとするモビリティ社会の技術進化、カーボンニュートラルに向けた世界的な動きに対して、果敢に挑戦し、その挑戦を支え、皆で協力し創造を実現する、そして社会へ貢献していきます。

そのため、車載電装品だけに留まらず、動力源の電動化、さらには新規ビジネスの領域に至るまで、広く電動化の機会を捉え、「最適ソリューション」でカーボンニュートラル（脱炭素社会）への実現に貢献していきます。

① カーボンニュートラルの実現への貢献

これまでミツバグループは、グループ内のCO₂排出量削減に取り組み、着実に成果を出してきました。しかし、カーボンニュートラルの実現に貢献するには、製品のライフサイクル視点で事業活動により直接的・間接的に排出するCO₂排出量の把握・削減にサプライチェーン全体で取り組む必要があります。2021年度より社長を委員長とした「カーボンニュートラル委員会」を発足し、従来のグループ内CO₂排出量の削減から、材料調達から製品・部品の輸送、さらに製品の使用段階まで拡大し、サプライチェーン全体での削減に挑戦していきます。

ライフサイクル視点でのCO₂排出量の把握・削減



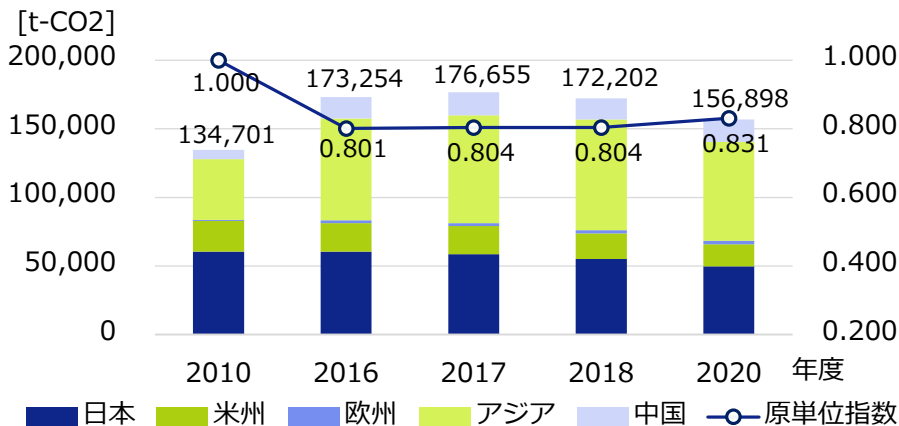


ⓘ 気候変動

ミツバグループでは、「ミツバ環境ビジョン2046」の実現に向けてグループCO₂排出量（売上原単位）を2010年度比で、段階的に18～20%削減する3カ年計画を策定し、省エネルギー委員会と生産技術環境委員会を中心に活動を推進しています。2020年度は、省エネ設備への計画的な更新や、これまでに実施してきた有効施策のやり切り、また、各工場で使用する生産設備の製作・工程設計の段階から環境負荷を低減する源流に遡った改善活動を推進しました。

ミツバグループでは、再生可能エネルギーの活用も積極的に進めており、2020年度には太陽光発電システムにより合計2,742MWhを発電しました。今後も、地域に適した再生可能エネルギーの利用を進めていきます。

ミツバグループCO₂排出量



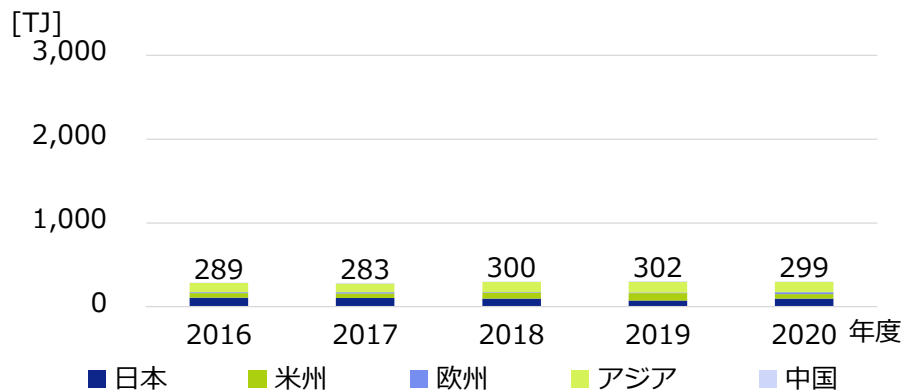
- ・原単位指数は売上高当たりのCO₂排出量を1とした場合の指数
- ・電力のCO₂換算係数は国際エネルギー機関 (IEA)の国別係数を使用



太陽光発電システム（ミツバ研究開発センター）

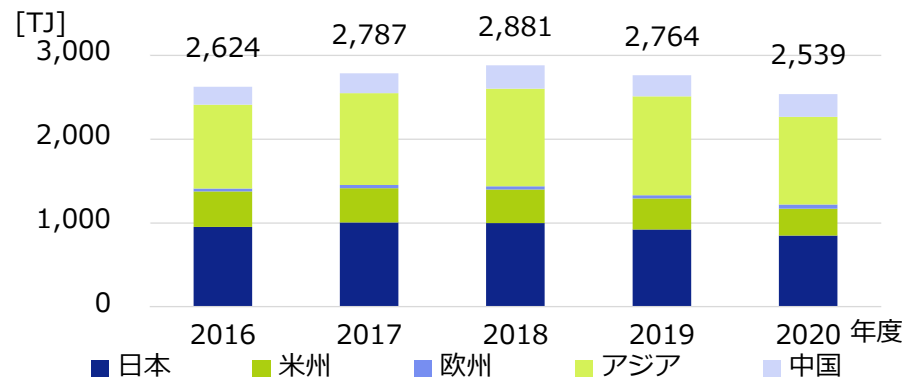
気候変動

ミツバグループ直接エネルギー使用量



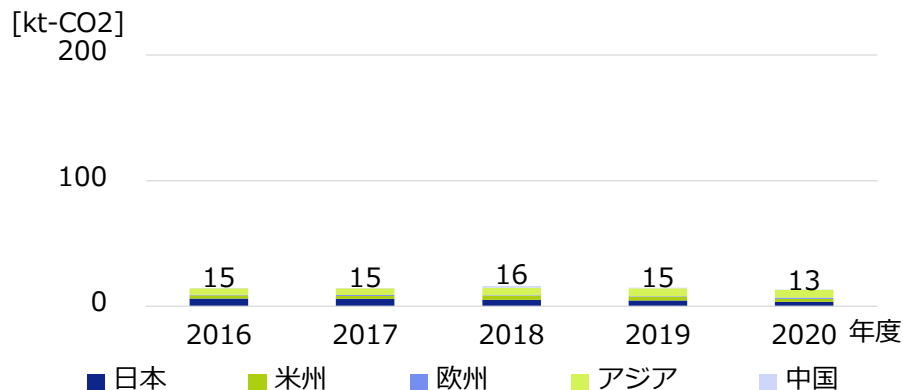
・直接：温室効果ガスの直接排出源（燃料・ガスの使用）

ミツバグループ間接エネルギー使用量



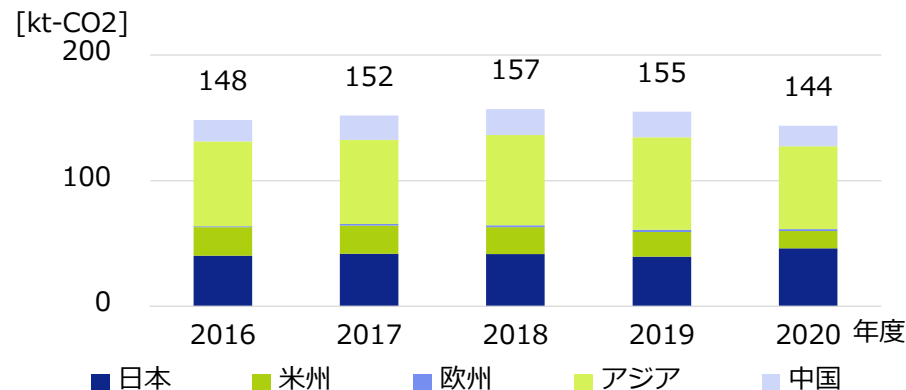
・間接：温室効果ガスの間接排出源（購入電力の使用）

ミツバグループ温室効果ガス排出量（Scope1）



・Scope1：ミツバグループ自らによる温室効果ガスの直接排出(燃料の燃焼)

ミツバグループ温室効果ガス排出量（Scope2）



・Scope2：他社から供給された電気の使用に伴う間接排出

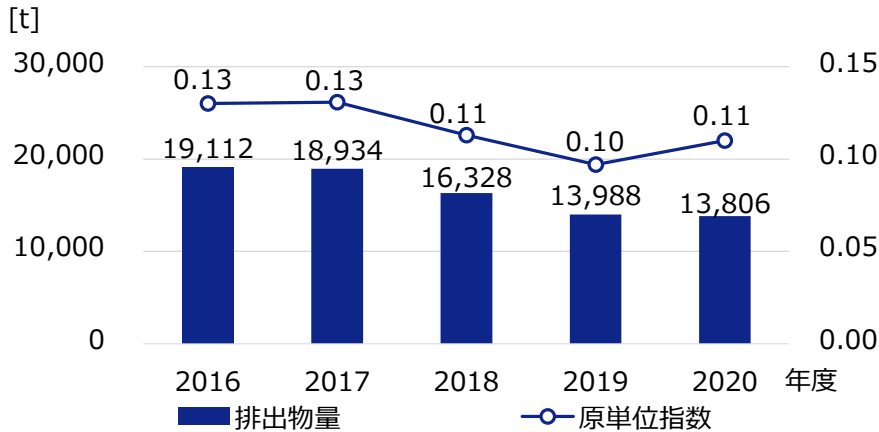


資源循環

ミツバグループでは、循環型社会の形成と限りある資源の有効利用を進めるため、原材料や副資材の歩留り向上に加え、樹脂成型の行程から廃棄されるランナーの再生利用、生産設備のダウンサイジングなどの技術開発を推進しています。また、生産工程で使用された廃油を浄化した再生油の使用を積極的に進めることで、廃棄物の発生抑制と資源の循環利用を行っています。

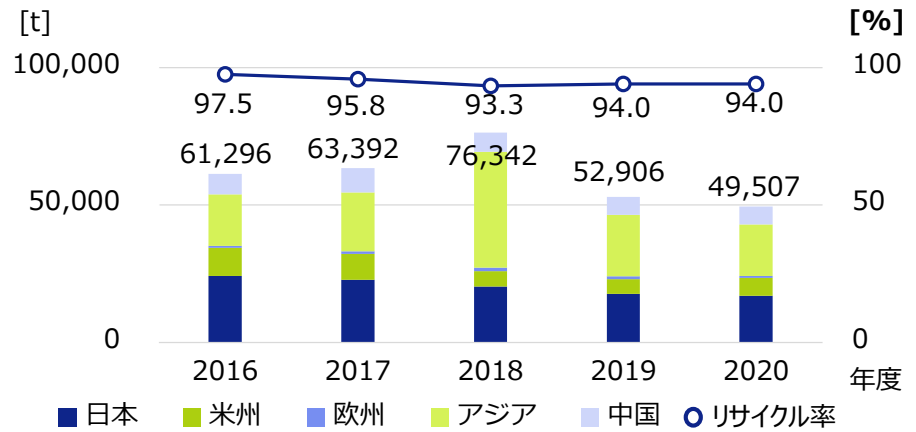
ライフサイクルの視点から資源の効率的な利用やリサイクルを進めることにより、「循環型社会」の形成を目指す活動を推進します。

ミツバ排出物排出量



・原単位指数は売上高当たりの排出物排出量を1とした場合の指数

ミツバグループ排出物総発生量およびリサイクル率



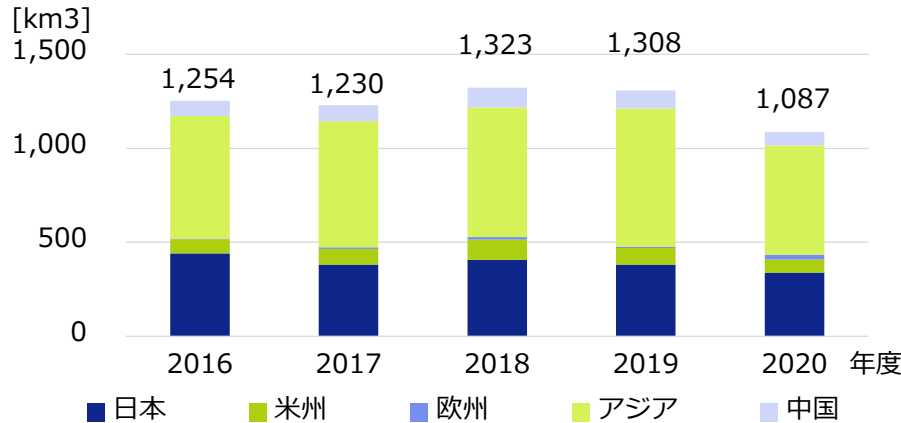


① 資源循環

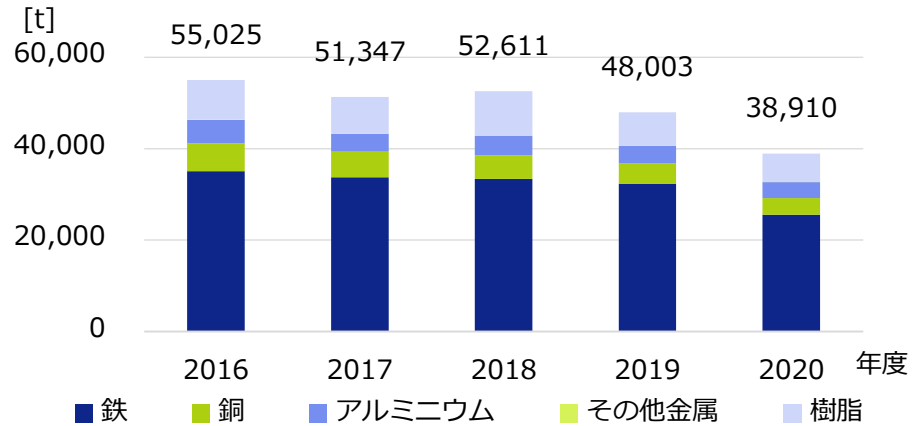
ミツバグループでは、事業活動に伴って排水される水の汚染状況を定期的に監視しています。生産工程で使用した水は、高度な排水処理施設で浄化した後に河川へ排水しています。排水処理施設で浄化できない廃水は、産業廃棄物として適正処分することで、水環境の保全に努めています。

ミツバ・インディア Pvt. Ltd.では、表面処理工程からの排水を再利用するため、循環型の排水処理装置を導入し、限りある水資源を有効活用しています。

ミツバグループ水資源使用量



ミツバ資源使用量





❗ 生物多様性

ミツバグループは、豊かな自然を守るため、自然環境保全に積極的に貢献していくことを「ミツバ環境ビジョン2046」で定めています。

緑豊かな森林を育てることは、動植物や自然環境、生活環境を保全し、生態系や生物多様性の保全にもつながります。グループ各社では周辺の自然環境を確認するとともに、森林整備や植樹、環境美化活動を活発に実施しています。また、事業活動による生物多様性への影響を認識し、工場からの排水が生態系に影響を与えないよう監視および評価を続けています。

自治体や地権者と協定を結んで継続的に実施している森林整備活動では、絶滅危惧Ⅱ類のキンランの生育が確認されています。



森林整備により絶滅危惧Ⅱ類のキンランが生育

ステークホルダーとのエンゲージメント

ミツバグループの事業は、お客さま、お取引先さま、株主・投資家さま、従業員、地域社会などのステークホルダーの皆さまと関わりを持っています。ミツバは事業に関わる全てのステークホルダーの皆さまとの双方向の対話を尊重し、「喜びと安心を提供」するためにさまざまな活動を行っています。

対象	内容	頻度
お客さま	お客さまの方針実現のための協業	日常的
	環境領域を含むCSRに関する調査等の協力	日常的
お取引先さま	お取引先さまとの共創（生産性向上活動）	日常的
	製品規制物質規制への取組み等の説明（調査説明会・講習会）	適宜
株主さま	社長・副社長による業績や方針・戦略の説明（決算説明会等）	年2回
	工場見学や事業説明等（工場見学会）	年1回程度
投資家さま	社長・副社長による業績や方針・戦略の説明（IRミーティング）	年2回
	質問状やCDP（カーボン・ディスクロージャー・プロジェクト）等の対応	日常的
従業員	社長・副社長による業績や方針・戦略の説明（経営方針説明会）	年2回
	社員限定サイト等によるインターナルコミュニケーション	適宜
地域社会	森林整備や美化活動などの環境ボランティア	日常的
	地域住民への環境の取組み等の説明	適宜

お取引先さまとのパートナーシップ

ミツバグループが環境領域を含むCSR活動を推進するには、自らが取り組むだけではなく、サプライチェーン全体で取り組む必要があります、お取引先さまの協力が欠かせません。

ミツバグループは、2010年に「ミツバグループグリーン購買ガイドライン」を発行し、お取引先さまに対して、製品規制物質調査への協力、購入部材への製品規制物質の非含有保証、環境マネジメントシステムの構築をお願いしてきました。

さらに、2019年には「ミツバグループCSR調達方針」を発行し、ミツバグループとともにCSR活動を実践されると同時に、お取引先さまが自らの協力会社さまとも同様にCSR活動を推進されるようお願いをしています。

地域社会における環境社会貢献

緑豊かな森林を育てることは、動植物や自然環境、生活環境を保全し、生態系や生物多様性の保全にもつながります。ミツバグループは、各拠点周辺の森林整備や植樹、環境美化活動を活発に実施しています。

ミツバでは、自治体や地権者と協定を結び、森林整備活動やボランティア活動を積極的に行っています。

2020年度 ミツバの環境社会貢献活動実績

活動	開催拠点	参加人数
森林整備活動	6サイト	61名
美化運動	10サイト	949名
参加のべ人数		1,010名

ミツバ環境レポートに関するお問い合わせ先

株式会社ミツバ 総務部

〒376-8555 群馬県桐生市広沢町1-2681

TEL 0277-52-0200 (直通)

E-mail kankyo@mitsuba.co.jp

<https://www.mitsuba.co.jp>